

2015(平成 27)年度 NBRP 情報運営委員会 議事要旨

日時：2015（平成 27）年 12 月 16 日（水）14:00～16:20

会場：情報・システム研究機構 会議室

出席者：田畑(委員長)、荒木、小林、佐伯、鈴木、長村、成瀬、仁田坂、深海、細矢、矢口、城石、倉田、山崎、の各委員、平田（松沢委員代理）

欠席者：増井委員

オブザーバー：文部科学省ライフサイエンス課 坂下調整官、同 勝又係長、同 鹿川行政調査員、日本医療研究開発機構（AMED）基盤研究課 西久保主幹、鈴木知財室長

事務局：総務企画課長、研究推進チーム

議事に先立ち、文部科学省坂下調整官より、第 4 期の NBRP 事業概要について説明があった。その中で、情報事業の役割が今まで以上に重要となり、新たな意見を取り入れていく必要があるとの発言があった。

【議 事】

1. 報告事項

(1) 活動報告

課題 1：情報センターの活動報告

山崎委員から資料 1-1、1-2、1-3 に基づき、概要及び活動報告（セキュア運用、データベース利用状況、NBRP ゲノム情報整備プログラム公開サイト、各リソースのシステム構築・運用等支援、データベースの改良、PubMed の LinkOut サービス、広報活動）について説明があった。また、第 4 期に向けたヒアリングが行われたこと、追加配分（総合検索サイト解析用マシン）の要望調査があったとの報告があった。

また、以下の意見交換を行った。

- ・リソースにおける成果論文の抽出方法について、著者名や機関名を特定して回収率をあげる意見があり、PubMed 上からの情報を生物種ごとに抽出し、検索対象を絞り込めるか検討する。

課題 2：GAIN 活動報告

平田委員代理から資料 2 に基づき、概要、活動報告（最新情報の追加・更新、各個体のゲノム・行動・形態情報の収集、個体情報の拡充と個体群管理、情報提供国際化の推進、広報活動、成果公開）について説明があった。

また、個体管理や飼育に関する事業推進について、情報収集の体制を整え順調に進んでいるとの報告があった。

課題 3：GBIF 日本ノード（JBIF）の活動報告

細矢委員から資料 3 に基づき、概要、活動報告（標本情報の電子化・データベースの構築、種名チェックリスト作成、生物分布情報の収集・電子化、種情報システムと DNA バーコードシステム構築、ポータルサイトの安定運用と利用促進に向けた試み、GBIF データ登録・公開および各種サービスの更新）、ワーキンググループ活動報告について説明があった。

また、GBIF・JBIF 活動は、生物多様性の評価や活動の方向性を決める上で役立つデータをまとめ、使いやすいように整備し提供しているとの補足説明があった。

課題 4：ABS 対応の活動報告

鈴木オブザーバーから資料 4 に基づき、活動報告（大学におけるセミナー及び個別説明会、メーリングリスト作成、意見交換会、窓口相談、海外関係者とのワークショップ、海外調査、合成生物学対応）について説明があった。

また、以下の意見交換を行った。

- ・「デジタル遺伝資源情報」は、遺伝子情報に限らず遺伝資源に関する全て情報（オミクスデータなど）が対象となる。
- ・生命系データベースはこの「デジタル遺伝資源情報」の網にかかる可能性が高いので、論理を考える必要がある。
- ・「デジタル遺伝資源情報」のアクセス規制として、データ公開前に届出及び許可を得る必要が生じるかもしれない。
- ・AHTEG(特別専門家会合)の資料および報告書に対するピアレビューが募集されているが、特に「デジタル遺伝資源情報」の扱いがABSの対象となる点について、サイエンスのオープン化や情報の重要性など関係者から意見を出してほしい。コミュニティの中での情報共有も重要。
- ・ABSに関する500件以上の窓口相談の内容に基づいた、わかりやすいパンフレットや事例集の作成を検討している。

(2) 生物遺伝資源委員会開催報告

倉田委員から資料5に基づき、11月20日に第18回生物遺伝資源委員会を開催した旨、報告があった。

2. 審議事項

(1) 今後の活動計画

課題1：情報センターの活動計画

山崎委員から資料1-1に基づき、活動計画（システムの安定運用、データベースの改良改善と拡充及び総合化、広報・啓発活動）について説明があった。また、第4期に向けての議論を行うため、運営委員会を前倒しで開催する旨、説明があった。

PAG (Plant&Animal Genome Conference) のブース出展のように、国際学会等で情報発信を行っていくことについて、意見交換があった。

課題2：GAINの活動計画

平田委員代理から資料2に基づき、活動計画（最新情報の追加・更新、個体のゲノム・行動・形態情報の収集・個体情報の拡充と個体群管理、情報提供の国際化の推進）について説明があった。

課題3：GBIF日本ノード(JBIF)の活動計画

細矢委員から資料3に基づき、活動計画（科博：標本情報の電子化・データベース構築、データベース作成、学芸員データベースの充実、広報活動、東大：種名チェックリスト作成、生物分布情報の収集・電子化、種情報システムとDNAバーコードシステム構築、遺伝研：ポータルサイト安定運用、GBIFデータ登録、利用促進に向けた試み、WG:広報普及活動を展開、GBIF活動への協力）について説明があった。また、全世界的に生物多様性情報学の活用が必要とされている旨、説明があった。

以下の意見交換を行った。

- ・生物多様性情報学教育カリキュラムについて、2年を目処にスライド集のようなものを作成し説明を付け加えて、最終的には出版していきたい。
- ・GBIFでは、生物多様性情報は誰でも利用できることとしているが、トレーサビリティを確保することは重要なことである。

課題4：ABS対応の活動計画

鈴木オブザーバーから資料4に基づき、活動計画（啓発活動、情報発信、国内措置の検討、情報発信力・大学への支援体制）について説明があった。その中で、来年度はCOP13があり、合成生物学も含め国内措置が進むと予想されるため、COPに向けた対応及び大学研究者コミュニティへの支援活動について、今後は医学及び医学関連の普及啓発活動を行う旨、説明があった。

(2) その他

山崎委員から、NBRP第4期の構想も含めて今後の方向性について意見を伺いたい旨、発言があり、以下の意見交換を行った。

- ・NBRP各リソース間で相互利用できる情報整備も一つの方向である。(オントロジーなど)
- ・データベースのRDF化についても、今後時期をみて検討したい。